

学校教育方針		中・長期目標			
定通の和を尊び、理想の追求を象徴する校章と校歌に示された精神をもとに、 1. 知性の涵養 2. 品性の陶冶 3. 心身の練磨を目的とする。		「心あたたな学び直し」、「限られた時間を活かしての学び」、「働きながらの学び」を願う生徒が、安心して学習できる環境をつくり、社会の一員として生きる力を育成する。			
		今年度の重点目標			
		1. いじめや暴力を絶対許さない安心安全な学校をつくる。 2. 挨拶に始まるコミュニケーション力と社会性を育てる。 3. わかる授業・伸ばす指導を工夫して基礎的な学力を定着させる。 4. 地域に開かれ、地域とつながった学校をつくる。			
分野	重点項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策
学習指導	教育課程	1 生徒の実態に即した教育課程の研究(新教育課程対応、学校設定科目の適正)	B	引き続き進路を見据えた4年生に教養基礎、就職チャートを設定した。	新学習指導要領の実施に向けて、生徒の実態と進路指導に合わせて、つけた学力の内容について引き続き検討して行く。
	授業の充実・改善	2 多様な生徒に対応した授業展開の研究。(全職員の研究・協力態勢)	A	多様な生徒に対して個々の対応をした。特別支援員との協力やタブレットの活用も行った。	個々への対応が必要であり、今後も研究や工夫が必要。特別支援員の支援や助言は有効であり継続させたい。
		3 授業の再点検による充実・改善(教師間の研修、授業アンケートの実施)	B	期末毎に2回の授業アンケートを実施した。回答を通して授業改善につとめた。日頃から教師間で情報交換ができた。	様々な機会から授業を見直し、より充実したものになるよう努める。
		4 声がけなど、学習意欲を喚起するための支援ができたか。	B	意欲を継続できるように細やかな支援を行った。仕事や家庭との両立をはかることがなかなか難しい生徒が多い。	日頃の声がけが意欲喚起の要になるので、家庭と連携しながら粘り強く対応したい。
生徒指導	生徒理解を深める	5 家庭環境や就業状況などを把握し、生徒の生活状況などを理解できているか。	B	三者面談期間のみならず、家庭訪問や保護者の来校等の機会を積極的に活用し、家庭との連携を深めることができた。また、特別支援員や医療機関に相談し客観的な情報を得ることができた。	特別な支援を必要とする生徒の実態把握に努め、研修などを通じ、適切な支援のあり方を研究していく。
	交通安全指導の実施	6 通学方法を把握し、安全に通学する指導がされているか。また、毎日の生活にも安全意識を持った行動が出来るように投げかけているか。	B	毎日の立ち番指導等で登下校時にかかわる大きな交通事故はなかった。一方で登校時以外でのバイクによる事故があった。	定時制のため自動車やオートバイを運転する生徒の割合が多いことから、交通安全ポスターなど啓発活動の充実を図る。
	安全・安心な学校づくり	7 学校生活を送るうえで望ましい態度やマナーを身に付けさせることができたか。(授業中のマナー、規則の遵守)	B	登校時や職員室の出入りの挨拶や玄関周辺の整理整頓等が全体的に良くなってきている。数件の指導事例はあったが大きな問題行動はなかった。一方で学年が進行するとともに、やや規範意識の低下が見られた。	全日制と同じような基準で生徒指導に取り組むのは無理があり、定時制として明確な基準作りが必要である。社会生活をする上で基本になる大切なことなので、さらに学校生活全体で習慣化できるように指導していく。
		8 お互いを尊重し、人権意識を育てるとともに、生徒の変化を見逃さずトラブルの未然防止に向けた取組みを行うことができたか。	A	年2回全生徒を対象に生活実態調査を含め「いじめアンケート調査」を実施した。調査ではいじめの報告はなかったが、更に職員の意識を高め指導を継続していく。	内向的な生徒や自分の気持ちを素直に表せない生徒への気付きや気づきをさらに高めていく。
	基本的な生活習慣の定着	9 家庭での生活や学校生活が安定した状況になっているか。(生活実態調査の検討、遅刻・欠席指導。)	B	登校・下校を中心に指導にあたっており、全体的には良くなっているが、一部指導に時間がかかる生徒がいる。	学校だけでなく家庭教育の影響が大きいため、家庭との協力体制をさらに密にしていく。
	相談支援	10 個々の生徒が抱えている課題を共有し、生活の安定や学習活動につなげる支援を行うことができたか。	A	教室・保健室・家庭等様々な場面での生徒の情報や課題を職員全体で共有し、状況によっては外部機関とも積極的に連携を取り合って解決を図ることができた。強い特性を持つ生徒については特別支援員に協力をいただき、成果を上げている。	次年度も特別支援教育研究指定校への指定をお願いしたい。また、生徒を支え切れない家庭への支援をお願いできる外部機関との連携をしっかりと取っていききたい。
進路指導	進学、就職指導の充実	11 希望調査を実施し、進路意識の喚起、進路希望の把握、適切な情報提供ができたか。	B	進路希望調査を実施した。生徒指導の資料として、結果を全職員に開示した。進路に関するガイダンスを2回実施した。進路希望未定の生徒もおり問題があった。	目的意識を持たない生徒の意識を喚起するためにアルバイトなどの就労経験をすすめる。
	キャリア教育の推進	12 進学・就職における面接・学科試験などの個別指導に対応できたか。	A	今年度は就職希望者のみとなり、人数も少なかったことから十分な個別指導が実施できた。	通常の就職の他に「就労支援」の団体との連携を進めていく。
		13 自己肯定感や他者と関わる力を育むため、教科指導や「総合的な学習の時間」等の中で、体験活動を経験させることができたか。	A	国語表現、就職チャート、教養基礎といった教科学習及び総合の時間での進路講話や職業ガイダンス、あるいはソーシャルスキルトレーニングなどを通じて、包括的にキャリア教育を行うことができた。	次年度も引き続きこの方向でキャリア教育を進めたい。
教育活動	クラス運営	14 個々の生徒に応じた履修指導や、クラス・学年でのSHR・LHRの効果的な活用ができたか。	B	履修指導は個別の対応をした。HR活動はクラス毎に工夫できた。	個々の生徒に対応した履修ができるようにしていく。HR活動の活用をはかる。
	生徒会活動などの充実	15 保護者との連携を密にしたクラス運営ができたか。(通常の連絡・保護者懇談会の活用)	A	クラス担任を中心に、家庭との連携を取り合いながら進めることができた。	成人した生徒についても必要に応じて家庭との連携を取っていく。
		16 文化祭や学校行事に多くの生徒が参加し、計画・実行できるような支援することができたか。	A	今年度は生徒会役員の発案で、文化祭に有志による露店を出店することができた。	生徒が参加しやすい企画を生徒会を中心に計画し、活動を活性化させていきたい。
学校運営	円滑な学校運営	17 生徒会活動・部活動の充実が図られたか。	A	卓球部が団体戦・個人戦で全国大会に出場できた。その他、バドミントン部・マンガイラスト部の活動も活発だった。	引き続き、運動部が大会に出場できるように、また文化部は文化祭で活躍できるようにサポートしていく。
		18 校務分掌の合理的・効率的な運営ができたか。(限られた人数で複数の分掌を持つ中での協力態勢)	B	他パートの分掌委員と会議を重ねながら効率の良い分掌計画が立案できた。	夜間部としてこれまで以上に分掌を見直すことにより教員定数と合わせながら分掌計画を考える必要がある。
	19 生徒データの管理と正確な資料づくりにより、校務と各指導を円滑に進めることができたか。	B	定期的に生徒状況を把握することができた。資料整理をこまめに行いたい。	懇談会等を通して生活状況の変化を把握し、資料を円滑に活用できるようにする。	
	20 本校に求められた役割を職員間で共有し、行事や学校運営全般にわたる適切な見直しや改善を進めることができたか。	B	生徒の実態に応じて各所で改善を進めた。引き続き継続していく必要がある。	生徒に即してきめ細かく対応することで、適切な見直しや改善につながるよう進めていきたい。	
開かれた学校づくり	21 学校公開の内容の充実を図り、わかりやすい情報を提供できたか。(外部の方々への理解)	B	学校公開と体験入学を同日に実施した。例年になく外部の方の参加があり、概ね好評であった。	HPや様々な説明会を活用して更に情報を発信していきたい。	
	22 同窓会・教育振興会との連携強化を図る取組を行うことができたか。(求人の開拓などのお願)	A	保護者・生徒・教職員による学校整備作業の実施や文化祭への保護者参加など今年度は100名近くの参加者があった。	役員の保護者以外の方にも、更に参加してもらえよう、広報活動を充実させる必要がある。	